

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をホーム内に提示し常に目に入るようにしている。理念の実践に向けて職員は毎月の目標を立ててご入居者様、ご家族様の意向をくみ取り信頼関係の構築に努めている。	理念については、玄関正面とホーム内エレベーターホールに掲示し、共有と実践に繋げている。ケアセンターを始めとした複合施設の朝礼が11月より再開され、朝礼時に理念を唱和している。職員は理念の持つ意味を理解し、優しい言葉遣いに徹して日々の支援を行っている。新入職員については法人内のオリエンテーションで理念に付いて説明し、理解を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ規制の緩和を受け、感染対策をとりながら、ご家族との居室面会を常時行っている。地域との交流として菊花展の鑑賞や、法人内外の方々で行う緑化フェスティバル焼き芋の大会に参加している。	今年度より外国からの技能実習生が在籍するようになり、今年から再開された町の運動会に参加し交流の時間を楽しんだという。また、町の夏祭りには法人が「踊り連」に加わり、数名の職員が参加している。また、11月には法人の緑化チームと地域ボランティアが合同で敷地内の落ち葉を集め「やき芋」大会を行い、利用者も見学しながら「焼き芋」を食べ楽しい1日を過ごしている。合わせて、クリスマスには地域の方がクリスマスキャロリングで来訪している。今後、町の敬老会や文化祭にも感染状況を見ながら参加したいという意向を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	空室が出た際は地域包括に報告し、地域でお困りの方を優先的に受け入れる取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ規制の緩和を受け、6月より運営推進会議を再開し、支援報告や活動報告を行い、ご意見等をいただきサービスの向上に活かしている。	コロナ禍が長く続き書面での報告が続いていたが6月より対面での運営推進会議が再開された。家族代表、自治会長、民生委員、町福祉課職員、地域包括支援センター職員、法人グループの病院看護部長、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、偶数月に開催している。利用状況の報告、事故・ヒヤリハット報告、活動報告、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。コロナ禍の状況が長く続き、会議の参加者が全て新しい顔ぶれとなり新たなスタートを切った。自己紹介から始まったが、今後は地域に密着したグループホームとして活動を進めて行く予定であるという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から支援やサービスについての報告・連絡・相談を行っている。また医療機関への受診・入院が必要なインシデントについては担当者へ書面の提出と状況説明・対策説明を行っている。	町福祉課には事故・ヒヤリハット報告等、必要に応じ訪問したり電話などで連携を図っている。地域包括支援センターには様々な事柄について相談をしており、希望があれば家族も同席している。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し、職員が対応して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を実施しないケアに努めているが、安全の為、玄関、エレベーターは施錠している。入職時と定期的に法人での研修に参加し、支援に生かしている。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。入居間もない方が夕方になると帰宅願望が強くなるが、職員が付き添い複合施設内を歩いたり、家族に電話をしたりして納得していただいている。転倒・転落が危惧される方がおり、家族と相談の上、人感センサーを使用しているが、必要性について定期的に検討している。そうした中、職員は声を掛け合いきめ細かな所在確認を心掛け、安全に過ごしていただけるよう取り組んでいる。また、法人内・外の身体拘束に対する研修会に参加し拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修での学習、外部研修や全体ミーティングで虐待についての勉強会や意見交換を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用中のご入居者様はいないが、職員は法人での研修や外部研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前より不安や疑問点についての相談を行い、契約時に契約内容、重要事項の説明を行っている。□		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話等でご入居者様の様子を伝え、意見や要望をお聞きし、頂いた意見や要望はその都度話し合い反映するようにしている。□	家族の面会についてはコロナ蔓延中は窓越しでの面会を行っていたが、5月8日の5類への移行を受け、現在は家族、近親者については居室で面会を行っている。また、利用者のホームでの生活の様子は毎月発行される便り「やまびこ通信」に担当職員の一言コメントを添え家族に届け喜ばれている。合わせて面会時や電話できめ細かく利用者の様子を伝えるようにしている。コロナ禍が長引き、家族会等が出来ない状況が続いていたが、今後は感染状況を見ながら家族との連携を強化し、開催に向けて取り組みたいという意向でいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングで意見や提案を聞く機会を設け、それとは別に個人面談で職員の提案を運営に生かしている。□	毎月、月初めにユニット会議を開催し意思統一を図っている。業務内容の報告、感染対策についての話し合い、本部からの連絡、外部研修に出掛けた職員からの持ち帰り研修、利用者一人ひとりのカンファレンス、意見交換等を行い、業務の円滑化に繋げている。人事考課制度があり職員は年間目標を設定し自己評価を行い、それを基に管理者による個人面談が行われ、モチベーションアップに繋げている。また、年1回職員対象にストレスチェックが行われ、メンタルヘルスにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員との面談を実施しており、職員の業務への取り組みや意見を聴取し、改善に努めている。□ □		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の外部研修、資格取得に向けた支援がある。新人研修や法人での研修に加え、外部研修への参加を促している。□ □		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部、内部研修参加時に交流した情報を、ミーティング等で共有している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入居前訪問を行い、またご本人様・ご家族様よりアセスメントシートに記入していただき不安や要望をお聞きする。入居時には再度ヒアリングを行い不安や要望に応えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前訪問や入居時にアセスメントシートをご家族様に記入していただきヒアリングしている。入居時に再度ヒアリングを行い、不安や要望に応えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入時にご本人様・ご家族様からヒアリングし要望を把握し、必要に応じて多職種と連携を図り、自立支援に向けた支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様それぞれの長所を生かし、ご入居者様と職員は協力して家事（食事作り、後片付け、掃除、洗濯たたみ等）を行い役割を持っている。またご入居者様同士の関係の構築にも努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を取りながら、ご家族との面会や外出を実施している。体調変化のあった場合やケアプランの立案時、更新時など随時相談しながら、ご家族様の意見を反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ規制の緩和を受け、感染対策をとりながら、ご家族との面会や外出を行っている。馴染みの店への理髪や買い物等の外出も再開している。	友人、知人の面会は現在も自粛している。ホームの電話を有効活用し、家族などと話す機会を設けている。欲しい物については家族に連絡して届けていただくとともに、法人が運営する移動販売車が月1回来訪し、おやつ等の買い物を楽しむ買い物レクリエーションも行っている。理美容については行きつけの美容院に出掛ける方がおり、他の利用者は顔馴染みとなった訪問理容師にカットしてもらっている。また、年末年始には手作りのクリスマスカードや年賀状を作成して家族に出す予定であるという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士が家事やレクでの共同作業を通じて、良好な関係性を築けるようにしている。また食事の席等で会話ができる環境作りを、職員を交えながら提供している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りさせていただいたご入居者様には、グループ法人で逝去者記念礼拝を実施している。またご要望があれば介護相談等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中の日常会話から、希望、意向を聞き出すよう心掛けている。困難な場合はご家族からヒアリングを行う。またご入居者様の表情やしぐさから予想しアプローチを試みている。	介護度4、5の利用者で意思表示の難しい方がおり、問い掛けに対する表情より希望を受け止めるようにしている。他の利用者についても、食べ物、洋服選び等、二者択一の提案も含めきめ細かな働き掛けを行い意向を受け止めるようにしている。日々の気づいた事柄については共有シートに随時メモ程度の書き込みをして徹底を図り、業務に関することはパソコンの介護日誌と連絡ノートに残し、出勤時に確認して日々の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様、ご家族様へ入居前訪問でのヒアリングや、入居時にアセスメントシートに記入して頂き把握に努めている。疑問点が生じた場合、ご本人様・ご家族様からヒアリングを再度行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートでの情報収集に加え、一人ひとりの生活の中でご入居者様の機能の確認を行う。またご家族様や訪問看護師、主治医の協力のもと把握に努めている。今年度からリハビリ職員が常勤し、転倒予防等の強化をしている。□		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から支援やサービスについての報告・連絡・相談を行っている。また医療機関への受診・入院が必要なインシデントについては担当者へ書面の提出と状況説明・対策説明を行っている。□ □	職員は1～2名の利用者を担当し、居室管理、家族との連絡、足りない物の補充、誕生日会の企画等を行っている。家族の希望は面会時や電話で伺い、支援計画更新前のカンファレンスで意見を出し合い、1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月の月別具体的支援目標のモニタリングを行い、ケアマネジャー中心にプラン作成を行っている。入居時は暫定で1ヶ月間のプラン作成を行い、様子を見て短期目標を6ヶ月としてプラン作成に繋げ、状態が安定している場合は1年での見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護用ソフトを用い、個別に記録を残すと共に職員間で情報共有している。またホーム全体、ユニット内での送りやカンファレンス、ミーティングで情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内で、リハビリ職員（PT・ST・OT）指導のもと毎月個々に目標設定し、ユニットでの体操の実施やご入居者様のADLに適した生活支援方法を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ケア会議や行政からの通知で地域資源の把握を行っている。定期的に訪問して頂く地域の床屋とは顔なじみになり会話が弾んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様、ご家族様の希望で決めており、ご依頼があるときは併設の施設協力医を紹介している。それぞれのかかりつけ医と連携を取りながら適切な医療サービスを受けられるように支援している。	入居時に希望を聞き、ホームとしての取り組みを説明している。現在は入居前からのかかりつけ医利用の方が若干名おり、月1回の往診で対応している。他の多くの利用者はホーム協力医の月2回の往診で対応している。また、週2回、火曜日と木曜日には訪問看護師の来訪が朝8時30分～17時30分まであり、利用者一人ひとりの健康管理と状況把握に努め、医師との連携も固り万全な医療体制が整えられている。歯科については必要に応じ受診と往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同建物内に併設されている訪問看護ステーションと24時間体制で、日常の健康管理や体調変化等の連絡を取り、早期対応ができる体制をとっている。今年度は週2日は訪問看護師が在住し体調管理に努めている。□		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、支援に関する情報を医療機関に情報提供している。入院状況の把握を行えるように、ご家族様、医療機関と連絡を取っている。また退院時には退院カンファレンスに参加し情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に契約内容、重度化による看取りに関する指針の説明を行い、身体状態に合わせて関係医療機関と協力しながら、その都度ご本人様、ご家族様の希望に沿った支援している。	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明し同意を頂いている。食事や入浴が難しい状況に到り終末期を迎えた時には家族、医師、訪問看護師、ホーム職員で話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に4名の方の看取りを行い、コロナ禍であったが家族は居室において最期の時を共に過ごすことができ感謝の言葉を頂いている。また、好きだった「甘い物」をガーゼに湿らせ口に含んでいただいたり、最期は「スーツ」に着替えていただいたり、好きだった「宝飾品」を身に付けていただきお見送りをしたという。看取り後には振り返りの機会を設け、次回に繋げられるように話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時や申し送り時にそれぞれのご入居者様に合わせた緊急時の対応を取っている。また急変や事故発生後の振り返りを行い、実践力に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施している。地域との災害時の相互応援協定を締結している。BCP(事業継続計画)の作成を行い災害に備えた対応を計画的に行っている。	年2回消防署へ届け出の上、複合施設全体で防災訓練を実施している。9月には利用者を変え避難経路の確認を行い、非常階段まで移動しての避難訓練と水消火器を使っての消火訓練を行っている。3月には夜間を想定した防災訓練の実施を予定している。また、法人として地域との防災協定が結ばれ協力関係が構築されている。備蓄についてはグループ法人内に非常用食料品、介護用品等が準備されている。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体的や精神的なプライバシーの確保ができるよう声掛けや環境整備に努めている。また日々の支援の中で、職員同士や管理者から人格尊重やプライバシーの確保についての指導している。	日々の接し方に配慮をして利用者を一人にしないようにし、一人ひとりの状況に合わせ定期的に笑顔で優しくわかり易く、また、近くで、ゆっくりと声掛けをするようにしている。更に、トイレ介助の際には周りに解らないように誘い、ドアは必ず閉めよう徹底している。呼掛けについては入居時に希望を聞き、苗字か名前を「さん」付けでお呼びし、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを忘れずにプライバシーに配慮している。合わせて、職員は年1回実施される法人の身体拘束・虐待防止の研修会に参加し意識を高め、日々の支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる声掛けや環境創りに努めている。希望の表出や自己決定の表現が難しいご入居者様に対しては解り易い表現や職員からの提案を行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活習慣や意向を職員同士で情報共有し、その日の体調やご希望を確認しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と相談しながらその人らしいおしゃれができるよう支援している。なじみの化粧品や髪型、衣類の着用をさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備、味付け、盛り付け、食器洗い、食器拭きなど出来ることを分担して行っている。季節を感じ楽しんでいただけるよう季節の野菜や果物の提供をしている。	自力で摂取できる方が大半で、一部介助の方と全介助の方がそれぞれ若干ずつという状況である。献立は法人の管理栄養士に同席してもらい毎月食事ミーティングを行い、季節感や行事等も加味しながら献立を立て提供している。利用者のお手伝いは力量に合わせて果物の皮むき、炒め物、盛り付け等、楽しみながら参加していただいている。そうした中、行事等には特別食が用意され、敬老会には「天ぷら」「茶碗蒸し」「刺身」、彼岸には「おはぎ」、正月には「おせち料理」等で季節感を味わっている。また、週1回は「麺類」「パン」の日が設けられており、利用者も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し足りない場合は、好みのもので利用し補充している。個々の状態に合わせて刻んだりミキサーにかけたりし、使いやすい食器を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれのご入居者様に合わせた口腔ケア用品を使い、必要な場合はリハビリ職員(ST)の指導のもと、見守りや一部介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した排泄が行えるよう排泄パターンやしぐさを把握し、声掛けや介助を行っている。	殆どの利用者は一部介助の状況で、数名の方が自立している。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、定時の誘導と合わせて排泄表や介護記録を参考に一人ひとりの様子を見ながら早めに声掛けをしてトイレでの排泄に繋げている。排便については3日間ない場合にコントロールを行い、牛乳、お茶、コーヒー、スポーツドリンク等で1日1,000cc以上の水分摂取に取り組み、スムーズな排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認を行い記録し情報共有している。食べ物や水分、乳製品の提供、運動を実施しており、なるべく内服薬に頼らない支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に合わない場合は、時間を変えたり日にちを変えたりして支援している。ゆず湯やりんご湯、菖蒲湯等季節の湯を楽しんでいただいている。	全利用者何らかの介助が必要な状況である。入浴拒否の方はなく、基本的に週2回の入浴を行っている。入浴剤を使用したり、「ゆず湯」「菖蒲湯」等の季節のお風呂を楽しんでいる。コロナ禍も落ち着いて来ており、感染状況を見ながら以前の様に近くの温泉の「足湯」に出掛けたいという意向を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの睡眠パターンとそれぞれの生活リズムや体調、活動状況に合わせた睡眠が取れるよう調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬、服薬ともに漏れや誤りが無い様、違う職員でチェックを行っている。服薬の変更時は申し送りや記録を通じ、職員全員が情報の共有ができるようにしている。また薬剤師とも相談しそれぞれのご入居者様に合った内服方法を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事、洗濯など得意なことを役割として行ってもらっている。散歩に出かけ、気分転換を図っている。また、趣味の塗り絵などをして楽しめるよう支援している。また季節の行事や誕生日会を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にホーム周辺の遊歩道を散歩している。感染症予防のため、これまでのような外食等は控え、季節を感じられるようドライブ、菊花展鑑賞の外出支援を行った。	外出時、自力歩行の方は数名で、車いす使用の方が大半という状況である。天気の良い日には法人敷地内の遊歩道を散歩したり、複合施設の周りが桜の木で囲まれていることから春には近くの東屋でお茶を飲みながら花見を楽しんでいる。また、秋よりホームとしての外出も再開され、感染対策を取った上で少人数に別れドライブに出掛けたり、隣市の臥竜公園の菊花展見学にも出掛けている。今後、計画を立て季節に合わせた外出レクリエーションを行おうという意向を持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として現金の所有はしていないが、希望のある場合はご家族様と相談の上管理し使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は自由に電話できるようにしている。手紙の返送もできるよう、はがきの購入や一緒にあて名書きをするなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間の廊下に節句の人形や季節の花を飾っている。天気の良い日にはデッキに出てお茶を飲んだり体操したりしている。リビングや居室はご入居者様の体調や希望に合わせて室温や灯り、音に配慮している。	法人の広い敷地には桜の木々に囲まれた遊歩道があり日常の散歩コースとなっている。エレベーターホールを挟むように配置された両ユニットは自由に行き来ができるようになっており、広い共用空間の中で歩いたり、体操で体を動かしたりして自由な日々を送っている。そうした中、ホール兼食堂には3ヶ所の食事テーブルと大きなソファが数ヶ所に置かれ、利用者の寛ぎのスペースとなっている。また、「やまびこ掲示板」には外出や行事の様子が写真で紹介されており活動の様子を窺うことができる。	



認知症対応型共同生活介護事業所「やまびこの家」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様のご気分に合わせて家具のレイアウトをその都度工夫している。たたみや椅子、ソファも配置し、移動しながら腰を下ろしたり独りで休んだりできるスペースも用意している。食事は気の合ったご入居者様同士同じテーブルで召し上がってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた馴染みの道具を持ってきてもらうようお願いしている。好きな花や家族の写真を飾ったりしている。必要な方はテレビやラジオなども利用している。	掃除が行き届き清潔感漂う居室には洗面台と整理ダンスが備え付けられ、暮らし易い造りとなっている。家族と相談の上、衣装ケース、イス、テレビ等でレイアウトされ、趣味の人形や職員から送られた誕生日のお祝いメッセージカード、家族の写真などに囲まれ思い思いの生活を送っている。中には家族写真を模造紙に貼り、家族の一言コメントが添えられたものが写真集として飾られており心温まる感じがした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	腰を下ろしながら洗濯ものを干す場所や、見守りながら調理をできる場所をつくり、安全に日常生活を送れるようにしている。		